

アウクスブルク市滞在記

2018/9/10～9/17

濱口 慎平

◎9月11日

東京から何時間かけてミュンヘンに到着したのか考えるのが嫌になるほど疲労困憊のなか、ミュンヘン空港を出た。フライトの疲れを忘れ、私を含め多くの団員が、「ヨーロッパだ！！」と、喜びのあまり叫んでいた。今考えれば、何をもってしてヨーロッパなのかよく分からないが、当時はとりあえず到着の喜びを味わいたかったのだと思う。

アウクスブルク市に到着するとすぐに市庁舎へ行き、市長表敬訪問が行われた。アウクスブルク市長らの話が終わると、写真撮影や民族衣装の試着など、多くのプログラムが用意されていた。プログラムが終わると、ホストファミリーとの対面式が行われた。少し緊張したが、ホストファミリーの方々がとても親切でフレンドリーだったため、すぐに打ち解けることができた。私のホストファミリーの家は、天気の良い日は庭で食事をするため、初日は自然に囲まれながらドイツ料理やお酒を嗜んだ。

◎9月12日

朝起きると、フライトの疲れもすっかり癒え、時差ボケもまったくないことが確認できた。

この日は一番楽しみにしていた、ノイシュヴァンシュタイン城の視察があった。城までは馬車で行き、非常にわくわくしたのを今でも鮮明に覚えている。写真やビデオを撮りたい箇所が多く、携帯の写真フォルダは城や馬の写真ばかりになっている。

この日は、ホストファミリーの家の庭でバーベキューをした。近所に住んでいるという祖父母や友達を招いていたため、かなりの人数で食事をした。しかも私が日本から来ていると聞いて、食事会に来てくれたため、非常にうれしかった。食事しながら、日本のことやドイツの話をして楽しいひと時を過ごした。

◎9月13日

現地の小学校に着くと、児童たちの合唱で歓迎された。児童たちが楽しそうに歌っているのを見て、非常に和んだのを覚えている。中では児童がいるため写真撮影が禁止されていたのが残念だった。というのも、児童の多くが私たちに対して興味津々で近寄ってきたり、話しかけてきたりしていたので、写真を撮って思い出に残したいと思ったのだ。

次に幼稚園に行った。こちらでは園児たちとの直接的な交流はなかったが、彼らが遊具などで遊んでいる姿を見るだけで十分に楽しい時間を過ごせた。

また、この日はプログラム終了後に日本人の参加者全員の各ホストファミリーの若者で施設を借りて伝統料理を作った。普段料理をしない私でもできる簡単なものだったので何とか参加することができた。料理中や食事中には交流していなかった他のホストファミリーと様々な会話をすることができてとても楽しかった。

◎9月14日

この日は現地のサッカーチームであるFCアウクスブルクのアリーナを訪問した。アリーナの裏側や、VIP席などを見学出来てとても良い経験になった。

また、この日は私たちの一大イベントである送別会が行われた。昨年度尼崎を訪れたアウクスブルク市の団員が民族衣装をまといながら、あの有名な恋ダンスを踊ってくれた。この日に彼らがダンスを踊ることを私たちは知らされていなかったので、驚きつつも、頑張っって日本の踊りを覚えてくれたことに感動した。私たちは、アウクスブルク市の人たちに尼崎を知ってもらうために尼崎の紹介ビデオを流した。尼崎の良さをうまく彼らに伝えられたかと思う。

◎9月15日

5日目の土曜日は、ホストファミリーとの自由時間だった。各々、ホストファミリーと相談して行きたいところや、ホストファミリーおすすめの場所に行ったそうだ。

私はホストファミリーと一緒に彼らの祖父母が暮らしているというドイツ南部の地域に行った。そこはアウクスブルクから車で2時間ほどの場所だったが、前日にホストファミリーとの宴が深夜まで行われていたため、車中で寝てしまい、ドライブ中に風景を楽しむことが出来なくて、残念な気持ちになった。

目的地に着くと、1時間ほどハイキングをし、その後はドイツ南部で有名なお祭りを見に行った。冬に入る前に、山にいる牛を山から下ろすという祭りだった。この日だけで何百匹という牛を見たと思う。祭りを見終わると、田舎で経営している祖父母のレストランを訪れた。とても自然が豊か

で、日ごろの疲れを癒すには絶好の場所だと思った。夕食はもちろんこのレストランで頂いたのだが、ホストマザーにここのメニュー全部タダだからいっぱい食べて、と言われたので、存分にドイツ料理を満喫した。

この日に経験したすべてが新鮮でとても良い思い出になった。

◎9月16日

最終日は、アウクスブルク市内にある尼崎通りというところに行った。姉妹都市であることを非常に実感した。

次は、アウクスブルク市で有名なプペンキステの博物館に行った。アウクスブルクでは、子供の時にプペンキステの劇を観に劇場に行く方が多いほど現地では非常に有名な劇場だそうだ。

昼には、植物園の中にある日本庭園を訪れた。日本の植物ではなく現地のものを使用しているようで、少し違った日本庭園を見られて面白かった。

最後は、フッゲライという福祉施設を訪問した。ここは福祉施設だが、歴史的な側面もあり、塹壕などを見学することができる。ドイツの歴史に触れるにはもってこいの場所だ。

◎さいごに

プログラムを通してアウクスブルクの文化や歴史について知り、姉妹都市交流をより深めることができたのは、尼崎市役所、長浜市役所、アウクスブルク市役所の方々が綿密な計画を練ってくれたおかげである。ここで感謝の意を表したいと思う。また、ホストファミリーなど私たちをもてなしてくれた多くの人々にも感謝を述べたい。この感謝のリレーを末永く続けていきたい。